

くの困難な歴史的出来事がこの地で繰り広げられたとしている⁽⁷⁾。この要衝の地は、ちょうど紅山文化の発祥地と重なり、また、6500年前から5000年前に紅山文化の先住民が生活し、次第に数を増やしていった地域でもある。

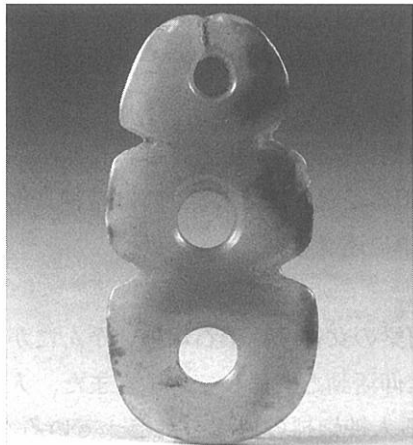


写真4. 三連玉璧（遼寧省阜新県胡頭溝墓地3号墓出土。高さ6.4cm）

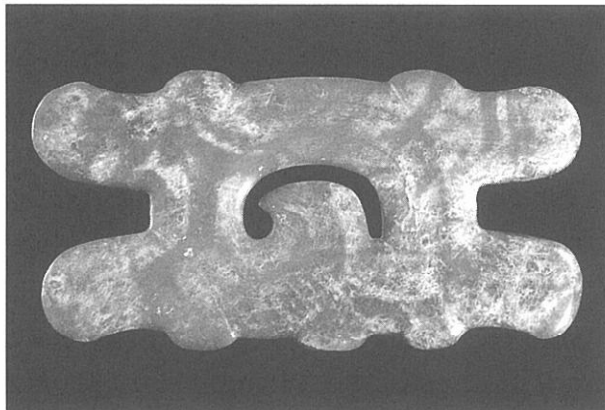


写真5. 勾雲形玉佩（牛河梁第16地点2号墓出土。長さ22.5cm）



写真6. 双勾形勾雲形大玉佩（牛河梁第2地点1号塚27号墓出土。長さ28.6cm）

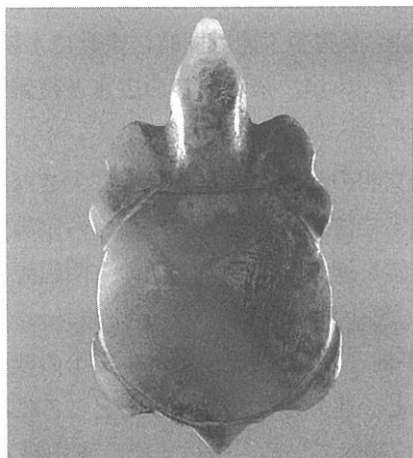


写真7. 玉亀（遼寧省阜新県胡頭溝墓地1号墓出土。高さ4.8cm）



写真8. 玉龍（遼寧省建平県採集。高さ15cm）

4. 積石塚・祭壇・廟の出現

紅山文化後期に出現した敖漢四家子草帽山の積石塚、略左東山嘴の祭壇と牛河梁の女神廟、積石塚といった巨大な「ピラミッド式」建築は、紅山文化と中国文明の起源をめぐる話題にさらに新しい内容を付け加えた。そして紅山文化は、中華文明の起源と密接に関係する中国北方地域の重要文化であると意義づけられるところとなった。

敖漢四家子草帽山の積石塚、略左東山嘴の祭壇と牛河梁の女神廟・積石塚は新石器時代の文化現象であり、次の2つの面から中国文明の起源に迫ることができる。1つは精神文化であり、もう1つは物質文化である。ここでは分けて簡単に述べる。

(1) 精神文化

敖漢四家子草帽山の積石塚、略左東山嘴の祭壇と牛河梁の女神廟、積石塚のいかんにかかわらず、これらはすべて紅山先住民の初期の原始的信仰活動と関係している。また、人類の原始崇拜は自然崇拜、祖先崇拜、トーテム崇拜から人神崇拜の過程をたどっている。紅山文化の壇・廟・塚の深遠な趣きは、紅山文化の塚から出土した玉器や東山嘴の祭壇から出土した玉璜に表れている。また、牛河梁の積石塚石棺墓から出土した紅山文化後期の原始崇拜遺物は、すでに原始宗教段階へと発展していることを示す。さらに敖漢四家子草帽山積石塚の玉器の組み合わせは、この時すでに祭祀活動を専属的に行っていた人物が存在したことを表わしており、すでに一つの社会階層が成立していたことを示している。

こうした人々は生前、各種の祭祀活動に専属して従事する中で、心の中に「人神」を認めるようになった。彼らは神に通じる玉器を手にし、さながら人と神の間に通じる使者、あるいは神の化身そのものとなった。彼らは死後、祭祀を行う聖地に埋葬され、生きていた人々に祭り続けられた。

牛河梁女神廟もまた、別の側面から紅山文化後期の祭祀活動がすでに相当大きな規模で行われていたことを示している。大小の女神と鳥神、玉猪や玉龍は同時に殿堂に奉納され、これらの間の内在的関係の有無については証明できないが、祭祀内容の広さと複雑さが連想できる。

これら有史以前の大規模祭祀遺跡の発見は、中国文明の起源に関する研究に大きな影響を与えている。ある学者は「遼西古代文化の研究はすでに新しい領域、すなわち宗教意識形態の領域に及んでいる。そして、主に宗教意識形態を通じて、この地区の文明起源を探索している」と説いている。

王大有氏はさらに、「中国の埴（古代祭祀用の平地）、壇、円丘、廟は事実上の政権と国家の象徴である。こうした大型の壇、円丘、廟など一連の建築が存在したところには、すでにどこにでも必ず国家が存在していた」⁽⁸⁾とすら述べている。彼はまた、東山嘴と牛河梁の壇、廟、塚の範囲が約50km²であることを明確に指摘している。その広々とした様子は

この場所が確かに国家の封禪の地であり、これらの建築は有機的に整えられた祭壇、方壇
円丘（台）である。まさに心安らかに壇に向い、方壇に石を立て、祖霊に祈る。土製の人
型塑像の組み合わせは、それらが天、地、人を祭る大型祭祀の中心であることを説いてい
る。周囲に居住跡が見られない山の上は、盛大かつ壮重な、国家の大がかりな封禪の地で
あったことがわかる⁽⁹⁾。



写真9. 牛河梁第13地点の全景

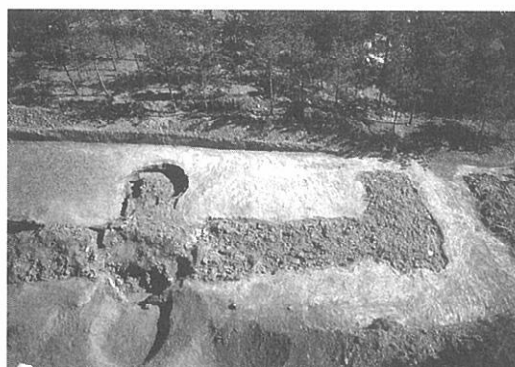


写真10. 牛河梁女神廟の全景

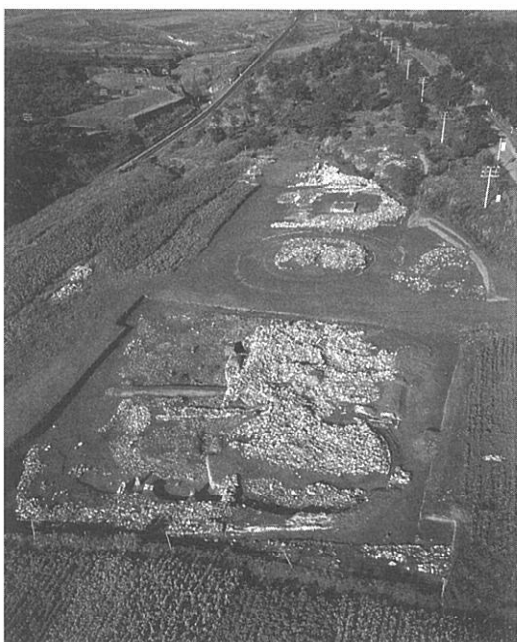


写真11. 牛河梁第2地点の発掘全景（東から西）



写真12. 牛河梁第2地点4号塚の全景

(2) 物質文化

東山嘴祭壇と牛河梁紅山文化の壇、廟、塚と轉山子の巨大「ピラミッド式」建築、巨大規模をなすこれらは有史以前に存在した公共性を持つ大型祭祀遺跡群であり、物質文化の